

1. 現地調査

- ・ 床下、天井裏等の調査が困難な場合  
その旨を特記事項等に記入する  
接合部の状況等は安全側となるようにランクを設定する

- ・ 筋かいの位置

筋かいの耐力を見込む場合には現場確認を原則とする

A. 設計図に筋かいの位置及び断面が記入されており、現地で数箇所目視で確認を行った

設計図通りであると判断し、耐力を見込む

B. 設計図に筋かいの位置及び断面が記入されているが、現場では図面通りに筋かいが入っていない箇所があった

目視で確認した箇所のみ耐力を見込む

安全側と判断し筋かいは無いものとみなす

1. 設計図がある場合はコピー等を添付

2. 上記のように診断員がどのように判断したか報告書に記入

- ・ 劣化度調査

築10年未満と10年以上では調査の項目が変わるので注意する

劣化事象を判断する際には局所的な事象、極軽微な事象をもって判断することが無い様に注意する

2. 報告書

- ・ 総合評価

計算書の総合評価（診断結果）の【その他の注意事項】には補強の方針等を記入してください。

また、特記すべき事項があればここに記入してください。

- ・ 写真

写真は外観・床下・天井裏等のほかに劣化度調査等で気になった箇所の写真も添付してください